

2023 年度 社会福祉法人日本点字図書館 事業報告

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

はじめに

「164 グループ、699 名、前年比 207 名増」。これは 2023 年度に当館を見学くださった方々の数である。

日本政府は、この年 5 月 8 日から新型コロナウイルスの感染症法上の分類を季節性インフルエンザと同じ 5 類に引き下げた。これにより、これまでであった各種の制限は撤廃され、「ウイズコロナ」社会が新たなステージを迎えた。人々の移動が盛んになり、街や観光地は賑わいが帰ってきた。それは上に記した当館の見学者数の増加からも読み取れる。見学者数は、当館への関心度と期待を物語るものでもあり、これらに応えられたかと問うことも怠ってはならないとの気持ちで 2023 年度を振り返っている。

グローバル化の時代にある現代は、政治・経済・社会、そのいずれもが国際的な動向によって左右されている。国際的な秩序が崩壊しつつあるとも言われる今日、混沌とした状態が生み出されているようにも見え、それらが引き起こす影響は当館にも及んでおり、決して小さくはない。

新型コロナについての国の取り扱いが 5 類に変更されたことを受け、当館では、事業の殆どを従来の方式に戻して展開した。結果、わくわく用具ショップへの来客数も人数的に回復傾向を示したが、全体的な売り上げはコロナ以前の回復には達しなかった。その要因は別の事柄が影響していると考えている。また当館の貴重な収入源である寄付金は、件数こそ大きな変動はないものの、一人当たりの寄付額は下がっており、こうしたところに一昨年から続く物価高騰等の影響が現れているように推察される。実際、決算の結果は厳しい状況が示された。このことを管理職にある者は十分に認識し、業務遂行をせねばならない。

不安定な世界情勢の中、新たな紛争も起こり、それらが今後の政治・経済・社会に何をもたらすのか気がかりであり、これらの動向に注視し、必要に応じて適切な判断が下せるようスピード感をもって努めたい。

そんな状況の 1 年ではあったが、11 月、公益財団法人 高橋松之助記念顕彰財団から第 16 回高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」が当館に贈られた。本賞は、読書推進と

文字・活字文化振興に貢献し、顕著な業績をあげた学校および地方自治体・団体・個人を顕彰するもので、当館は、点字図書や録音図書の製作・貸出を行なうほか、視覚障害者に常に寄り添い、さまざまな活動を行ない、読書環境向上に大きく貢献している点が高く評価されての受賞である。賞を主催する財団は墨字図書の大手取次会社の系列で、視覚障害者には縁遠い存在でもある機関から当館の事業を評価されたことの意味は大きく、今後の読書バリアフリーに向けた大きな手掛かりを得たようでもある。同時に当館へのエールとしても受け止め、今後の事業推進の力にしたい。

以下に、事業計画に設定した五つの重点項目について実施した事項を報告する。

《重点項目》

1. 図書利用登録者増に向けた方策の検討と実践

当館の登録者を年代別に見た場合、70歳代が最も多く28%を占め、これに50歳代19%、80歳代18%が続く。利用登録者を増加させるポイントの一つは、絶対数が少ないとは言え若い世代へのアプローチにあり、そのための行動は欠かせない。そこで教育機関へ出向いて視覚障害者にとっての読書の方法、図書館サービスの内容、利用の仕方等を紹介している。2023年度は次の期間を訪問し、授業を行った。

- ① 6月：筑波技術大学保健科学部新入学生
- ② 7月：筑波大学理療科教員養成施設2年生
- ③ 12月：都立文京盲学校

これに加え今年度は新規に12月、都立葛飾盲学校へ出かけ、教員へ録音図書の利用方法について各種読書機器やサピエ図書館の使い方の紹介等を行った。また8月には視覚特別支援学校教員の研修会で同様の講話をした。

一方、特別支援学校からの館内見学にも積極的に対応し、図書利用や用具購入に結び付けた。

- ① 4月：筑波大学附属視覚特別支援学校専攻科生
- ② 7月：石川県立盲学校高等部普通科生
- ③ 8月：相模原中央支援学校教員
- ④ 2024年2月：富山視覚総合支援学校教員

このほか、2024年3月には東京都ならびに東京都眼科医会主催のロービジョン・サポートフェアにもブースを出展し、図書館利用の紹介をした。

これらの取り組みの結果は、新規登録者数339名、同団体数4となって現れたが、目標とした数値には届いておらず、その分析と改善を図る必要がある。2023年度末の利用登録

者数は 12,876 名（うち点字使用者数 6,311 名、利用登録団体数 592）である。

2. 点字図書製作体制の充実

図書館には、知を集積し、後世に伝える使命があり、点字図書館である当館にはその知を点字で伝え、同時に点字文化を守り伝える任務がある。この義務を遂行するためには、一に点訳者の質の向上を図ることと、次に人員配置を含めた製作体制、使用設備等の課題の整理と改善を行うことが求められる。

前者については、今年度も研修会を実施した。

蔵書点訳者向けには 12 月、「広がる空の下、点字がつなぐ読者と点訳者～館長・立花からの‘今どき点字・点訳事情’～」を、希望点訳者向けには 9 月に「点字データを利用した視覚障害者の読書について」、3 月に「視覚障害者を取り巻く読書環境について」を開催した。

後者では、課題を洗い出し、その改善方策を見出すためのワーキンググループ（製作部長・総務課長・点字製作課長・点字製作課各 G L などから構成）を 4 月に発足させ、改善の道筋をつけるべく始動させた。

検討の項目に挙げたもののうち、蔵書点訳者の養成と確保については一定の方策が示されたので、2024 年度中に実施に移す。残る項目については引き続き検討作業を行う必要があるため、次年度の重点項目に組み込んだ。

3. 「サピエ図書館」システム担当職員の継承化

日本にあって、今日の視覚障害者への図書館サービスは電子図書館「サピエ」を中心に展開されている。それ故、システムの構築段階から主になって関わり、今はその管理を担当している当館の責任と役割は大きいものがあり、システムを安定的に運用し、そのうえで発展させる責務をも担っていると言える。このため、システムの管理を全般的に担える職員を育成することが求められる。また当館が図書の製作から貸出までの一連の過程で用いている図書館総合システムの CLIS は、業務遂行の上で欠くことのできないシステムとなっている。この二つのシステムの安定的な維持に努め、与えられた責務を果たし、もって視覚障害者の読書環境の向上に資するための方策の検討を行った。

結果、これらに関連する業務を担うサピエ・CLIS システム管理班を館長所轄の下に置くこととし、その規程を作成して 2024 年度からの始動に漕ぎつけることができた。システムの安定的、かつ継承的な運営は図書館サービスの展開を左右する要素となるだけに、この班の円滑な始動に努めていきたい。

4. 会計関連業務体制一元化と財政基盤強化の検討

当館の会計システムは現在、本部と用具事業課の 2 本立てになっているが、これによる

デメリットはいくつかあり、以前から改善の必要性が指摘されている。

ところで、税務関係帳簿書類のデータ保存を可能にする電子帳簿保存法に基づく各種制度を利用することで、経理のデジタル化が図れる。当館では、経理のデジタル化によって経理業務の効率化を推進すべく、これを進めているところであるが、まだ道半ばの状況にある。2023 年度はその対応に時間を割かれ、会計関連業務体制一元化と財政基盤強化の検討は滞った。これを行うには、デジタル化を完了させて取り組むのが望ましいことから、その作業を優先させたい。

5. 広報活動の充実

当館の運営においては、財政面での支持者や支援者を維持・増加させることが不可欠で、そのための広報活動は重要であり、注力せねばならない。これについては従来からいろいろに取り組んでいるが、必ずしも統括的に展開してきたとはいえず改善の余地があった。そこで、広報活動を統括し、活動を効果的に推進させるため 2023 年 4 月、部長・課長からなる広報委員会を設置し、体制を整えた。

広報委員会では、従来施設公開の一環で開催していたオープンオフィスに代わり、前年度実施した「にってんワークショップ」を今年度も行うこととし、その実施方法や「事業案内」の改定等の検討を進めた。

業務体験や視覚障害者についての理解を深める機会を提供する「にってんワークショップ」は 8 月以降、年度末まで 7 回催し、各回好評を博した。また新たな「事業案内」は 2024 年度の早い時期から配布できるよう準備を進めている。

法人が保有する視覚障害に関する豊富な資料等を広報や研究活動等に提供し、社会貢献に結びつけようとする奥村文庫では今年度、外部から 559 名の利用があった。うち、17 名（視覚障害 2 名）は研究者である。

所有する資料を用いた当館についての研究や講演では

①「文豪が残した点訳、朗読の許諾書」(大阪府立中之島図書館「図書館を学ぶ相互講座」2023 年 9 月)、立花明彦

②「点字・録音図書提供と著作権法の改修：点字図書館における 1970 年以前の実態についての具体的検討」(日本図書館研究会第 65 回研究大会、2024 年 3 月、立花明彦・四方未来・中村恵信)

③「身体障害者福祉展における日本点字図書館の活動実態：事業報告調査より」実践女子大学短期大学部研究紀要、2024 年 3 月、西脇智子)
の成果が見られる。

I ≪社会福祉事業 1≫

視聴覚障害者情報提供施設の設置経営及び全国の視聴覚障害者情報提供施設に関する連絡事業

[利用サービス]

図書情報提供サービス

サービスの実績

	2023 年度	2022 年度
① 利用登録者数	12,876 名	12,742 名
（新規登録者数 目標 500 人以上獲得）	339 名	349 名
（点字使用者数）	6,311 名	6,345 名
② 利用登録団体数	592 団体	596 団体
（新規利用登録団体数）	4 団体	6 団体

【個人利用登録者の除籍について】

339名の新規登録があった一方で、205名の除籍を行った。内訳として、ご逝去や、認知症・寝たきりなど高齢で読書が困難となったという理由が判明しているだけで90%以上を占めている。

③ 点字図書の総数・蔵書数および貸出・提供数

「総数」とは、当館製作分で点字データのみで管理しているタイトルを含めた数である。なお、「蔵書数」については従来通り、冊子体として書庫に配架されている数である。

総数	（タイトル）	23,506 タイトル	23,179 タイトル
	（冊数）	85,904 冊	84,946 冊
蔵書数	（タイトル）	22,929 タイトル	22,606 タイトル
	（冊数）	85,327 冊	84,373 冊
蔵書数の変化	（新収書）	652 タイトル	647 タイトル
		1,750 冊	1,793 冊
	（除籍書）	796 冊	773 冊
貸出・提供数（目標 5,500 タイトル）		5,239 タイトル	6,059 タイトル
内訳			
（ア）USB・SD カード等		612 タイトル	801 タイトル
（イ）冊子体		4,627 タイトル	5,258 タイトル
		16,109 冊	18,370 冊

(内 他館借受)	482 タイトル	540 タイトル
	1,458 冊	1,461 冊

④ 録音図書の総数・蔵書数および貸出・提供数

「総数」とは、当館製作分でデータのみで管理しているタイトルを含めた数である。
 なお、「蔵書数」については従来通り、媒体(CD)として書庫に配架されている数である。

総数	(タイトル)	26,567 タイトル	25,587 タイトル
	(巻数)	51,978 巻	50,527 巻
蔵書数	(タイトル)	20,678 タイトル	19,973 タイトル
	(巻数)	46,089 巻	44,913 巻
蔵書数の変化	(新収書)	757 タイトル	739 タイトル
		5,308 巻	5,256 巻
	(除籍書)	4,132 巻	7,084 巻
貸出・提供数(目標 150,000 タイトル)			
		232,504 タイトル	234,782 タイトル
内訳			
(ア) SD・CF カード等		92,896 タイトル	80,957 タイトル
(イ) CD 図書		70,716 タイトル	82,530 タイトル
		71,519 枚	83,698 枚
	(内 他館借受)	9,513 タイトル	10,882 タイトル
(ウ) CD 雑誌	(にってんデイジーマガジン含む)		
		68,857 タイトル	71,257 タイトル
		68,966 枚	71,383 枚
(エ) カセットテープ		35 タイトル	38 タイトル
		236 巻	308 巻
(オ) カセットテープ雑誌		0 巻	0 巻

⑤ にってんデイジーマガジン (目標 65,000 枚配布)

(ア) 個人配布 (CD)	5,245 名	5,407 名
(イ) 団体配布 (CD)	247 団体	246 団体
(ウ) 外国在住者配布 (CD)	9 名	8 名
(エ) 年間配布数 (CD)	64,772 枚	67,051 枚
(オ) サピエ図書館年間延べ利用	22,223 名	24,474 名

⑥ インターネット配信・サピエ図書館による資料の提供 (当館分)

(ア) データのアップロード		
書誌データ	新規	850 件
	更新	4,137 件
		873 件
		3,256 件

削除	77 件	71 件
点字データ	132 タイトル	152 タイトル
音声デイジー	429 タイトル	434 タイトル
テキストデイジー	204 タイトル	205 タイトル
マルチメディアデイジー	11 タイトル	12 タイトル
(イ) データのダウンロード (点字)		
プリントアウト	33 件	39 件
	56 タイトル	65 タイトル
	19,098 ページ	20,747 ページ
(ウ) 利用者によるダウンロード (当館製作コンテンツ)		
パソコン		
点字データ	12,056 回	14238 回
音声デイジー	144,938 回	149,525 回
テキストデイジー	18,362 回	18,233 回
マルチメディアデイジー	435 回	532 回
デイジーオンライン		
音声デイジー	351,901 回	398,120 回
テキストデイジー	20,154 回	21,711 回
マルチメディアデイジー	662 回	768 回

⑦ レファレンスサービス、書誌データの整備ならびに日本目録規則に関する情報収集

オンライン蔵書目録利用者が、当館の蔵書の中から様々な角度からのアプローチで目的の資料を探し出せるよう、日本十進分類法(NDC10 版)に対応した当館の目録規則に従い、書誌データの整備を行った。また、新たな日本目録規則(NCR2018 年版)について、国立国会図書館や公益社団法人日本図書館協会・株式会社図書館流通センター・システム開発保守業者等から情報収集を行ったが、まだ方針・対応が公開されていない団体もあるため大きな変動がなく、使用しているシステムに即影響を受けることがなかったため、課内担当者間での情報共有に止めた。

情報提供件数	52,534 件	65,418 件
情報提供先合計	5,249 件	5,915 件
(内 学生)	5 名	6 名
(内 社会人)	5,226 名	5,870 名
(内 団体)	18 団体	39 団体

⑧ 点字・録音図書の収集

点字購入図書	12 タイトル	2 タイトル
点字購入雑誌	12 誌	12 誌
録音購入図書	1 タイトル	4 タイトル

⑨ 利用サービス部図書情報課による図書の即時製作選定

利用者の声を直接聞く図書情報課の選書委員に、一部製作選定権を与え、利用者ニーズの高い日本文学（小説）を中心に、点字図書 12 タイトル、デイジー図書 12 タイトルの製作選定を行った結果、早期に当館が製作着手することができた。以下に製作選定した主なタイトルを紹介する。

- ・佐伯泰英著「柳橋の桜シリーズ 1 から 4」 点字図書・デイジー図書で製作
- ・佐伯泰英著「竈稻荷の猫」 点字図書・デイジー図書で製作
- ・村上春樹著「街とその不確かな壁」 点字図書・デイジー図書で製作

⑩ テレビ・デイジーの利用促進と提供

NHK（日本放送協会）の許可を得て、音声解説付きで放送されている NHK のテレビ番組から職員が選定し、録音した音源をデイジー編集した当館オリジナルのサービスであるテレビ・デイジーについて、にってんデイジーマガジンや当館のホームページにある蔵書検索・予約システムの WebOPAC、サピエ図書館の「施設からのお知らせ」等、積極かつ、迅速に製作選定と広報活動を行ない、視覚障害者等に対して CD 等で提供を行った。

- ・テレビ・デイジー 総タイトル数 346 タイトル
- ・2023 年度新規受入タイトル数 48 タイトル

【2023 年度利用状況】

年間の貸出ベストリーダーの上位 100 位中、10 タイトルのテレビ・デイジーがランクインしている。利用の高かった主なタイトルを以下に紹介する。

- ・「日本の話芸」シリーズ
- ・「BS 時代劇 赤ひげ 4」
- ・「ドラマ 10 大奥」
- ・「大河ドラマ 鎌倉殿の 13 人」
- ・「歴史探偵」シリーズ
- ・「BS 時代劇 善人長屋」

⑪ 利用者用目録の製作と提供

- ・点字図書新刊案内「にってんブレイル」
(年 6 回、点字版 1,260 部) を編集・発行
- ・録音図書新刊案内「にってんボイス」
(年 6 回、点字版 1,140 部・墨字版 1,500 部・録音版 32,428 部
計 35,068 部) を編集・発行

なお、録音版については、「にってんデイジーマガジン」及び「サピエ図書館」で提供した。

・年間追加目録

点字図書年間追加目録 点字版を編集・発行

録音図書年間追加目録 点字版を編集・発行

CD 図書年間追加目録 デイジー版を編集・発行

・蔵書目録の頒布 108 部

点字図書 点字版 8 冊頒布

録音図書 点字版 30 冊、墨字版 15 冊、CD 版 55 枚頒布

⑫ プライベートサービス

専門書を対象に事前予約制で対面リーディングサービスを実施した。

(目標：延べ 200 人)

延べ	234 名	227 名
利用時間	448 時間	433 時間
活動ボランティア	47 名	47 名

⑬ IT 教室/IT 体験クラスの開催

水曜日・金曜日開講の初心者向けの教室を 1 回 90 分（全 3 回）で再開した。

・初心者向けクラス（パソコン受講）

開催回数	0 回
延べ受講者数	0 名
受講者数	0 名

・初心者向けクラス（ios 受講 ※2016 年度より開講）

開催回数	16 回
延べ受講者数	6 名
受講者数	6 名

・初心者向けクラス（パソコン+ iOS 受講 両方受講）

開催回数	0 回
延べ受講者数	0 名
受講者数	0 名

土曜日開講の体験クラスを 1 回 90 分に戻して開講した。

・初めてパソコンにふれる人を対象とした、予約制による 1 回 90 分、原則 1 回（希望者には上限 2 回まで）の操作体験クラス

開催回数	3 回	2 回
受講者数	3 名	2 名

・初めて iOS にふれる人を対象とした、予約制による 1 回 90 分、原則 1 回

(希望者には上限 2 回まで) の操作体験クラス(※2016 年度より開催)

開催回数	13 回	19 回
------	------	------

受講者数	13 名	19 名
------	------	------

- ・初めて iOS とパソコン両方にふれる人を対象とした、予約制による 1 回 90 分、原則 1 回 (希望者には上限 2 回まで) の操作体験クラス

開催回数	0 回	0 回
------	-----	-----

受講者数	0 名	0 名
------	-----	-----

⑭ 点字教室修了者の自主活動 (点字学習サークル) の支援

※コロナ感染拡大防止のため、前年度に引き続き活動中止。

⑮ サピエ図書館の利用促進

引き続きサピエ図書館の利用促進のため、来館者や電話、新規利用登録の際、利用者の読書環境を考慮しながら、サービス概要説明を積極的に行った。

・当館を登録館としたサピエ個人登録者数	3,347 名	3,172 名
---------------------	---------	---------

⑯ 各システムの維持管理と機器の更新と改修

- ・サピエ図書館、および当館の基幹システムである CLIS 図書館総合システムの安定的稼働に努めた。また、サピエ図書館においては、サーバの更新作業の他、NDC の検索対象桁数を 15 桁に改修、原本出版年月での並び替え機能の改修などについて、各開発保守業者、全国視覚障害者情報提供施設協会関係者、各専用端末・ソフトウェアの開発販売業者と協力して行った。

- ・国内 69 団体の点字図書館等が導入している、サピエ図書館と一体化された出納業務管理システムである Web 図書館システムについて、電話やメール、サピエ研修会などで運用支援を行った。また、新規 1 団体の導入支援を行った。

⑰ 視覚障害以外の障害者への読書支援

・全利用登録者数	57 名	53 名
----------	------	------

・新規利用登録者数	4 名	7 名
-----------	-----	-----

・当館を登録館としたサピエ個人登録者数	46 名	43 名
---------------------	------	------

[図書製作]

1. 点字図書・触図等の製作

(1) 点字図書の製作、ボランティアの養成・指導

	2023 年度	2022 年度
① 発表点字図書数	168 タイトル	162 タイトル

		728 冊	684 冊
(ア) ボランティアによる点訳書			
		138 タイトル	132 タイトル
		617 冊	589 冊
(イ) 点字出版図書			
		30 タイトル	30 タイトル
		111 冊	95 冊
② ボランティアの養成・指導			
(ア) ボランティアによる点訳受入実績			
		146 タイトル	129 タイトル
		666 冊	562 冊
(イ) ボランティア数（年度内点訳・校正実績有）			
		51 名	56 名
(ウ) 現役点訳者を対象とした点訳技術指導			
	延べ実施数	1 回	1 回
	延べ人数	50 名	51 名
③ リクエストによる点字図書製作・ボランティア実績（東京都委託分）			
(ア) 点訳希望者	54 名	90 件	78,874 ページ
(イ) 点訳者	14 名	14 グループ	
(2) 点字図書等の頒布、触図等の製作・監修			
① プリント図書の頒布		20 件	16 件
		51 冊	40 冊
		2,934 ページ	1,892 ページ
② 点字プリントアウト・サービス		240 件	175 件
		24,821 ページ	16,364 ページ
③ 点字出版図書の頒布		363 タイトル	326 タイトル
		1,094 冊	1,076 冊
④ 点字図書給付事業取扱件数		109 件	114 件
		173 冊	163 冊
⑤ 視覚特別支援学校理療教科用図書の頒布			
『医療と社会』点字版		13 件	38 件
		52 冊	152 冊
『医療と社会』点字版（点字データ版付き）			
		5 件	—
		20 冊	—

『医療と社会』点字版（デイジー版付き）	3 件	9 件
	12 冊	36 冊
視覚特別支援学校高等部用教科書の頒布		
『be English Logic and Expression I Clear』		
	32 件	23 件
	192 冊	138 冊
『be English Logic and Expression II Clear』		
	5 件	23 件
	25 冊	138 冊
『SELECT English Expression I New Edition』		
	10 件	18 件
	30 冊	54 冊
『MY WAY English Expression II New Edition』		
	2 件	8 件
	14 冊	56 冊
『科学と人間生活』	20 件	28 件
	180 冊	252 冊
『科学と人間生活 新訂版』（旧課程）	6 件	3 件
	36 冊	18 冊

⑥ 文部科学省著作教科書の製作

特別支援学校中学部視覚障害者用『社会（公民的分野）』（3年生用）

34 件	32 件
408 冊	384 冊

⑦ 普通小学校に通う児童のための点字教科書作成

20 教科	146 冊	16 教科	122 冊
-------	-------	-------	-------

⑧ 自費出版図書の発行など

『中途視覚障害者のための点字入門』87 冊を販売した。

『点訳のしおり 新版』18 冊を販売した。

『ふれる世界の名画集』15 冊を販売した。

『いろんなかたちをさわってみよう』12 冊を販売した。

⑨ 団体・企業等からの依頼による触知案内図・点字サインの製作と監修

公園等案内板 各種の製作・監修

駅施設案内板 各種の製作・監修

2. 録音図書・録音雑誌・電子書籍の製作

(1) 録音図書の製作、ボランティア実績

	2023 年度	2022 年度
① 発表録音図書数	355 タイトル	338 タイトル
	2,959 時間	2,765 時間
(ア) スタジオ録音による製作図書（朗読・デイジー編集）		
	109 タイトル	92 タイトル
	899 時間	765 時間
(イ) 録音図書ネットワーク製作システムによる製作図書（朗読・デイジー編集）		
	189 タイトル	194 タイトル
	1,618 時間	1,657 時間
(ウ) シネマ・デイジーの製作（デイジー編集）		
	9 タイトル	4 タイトル
(エ) テレビ・デイジーの製作（デイジー編集）		
	48 タイトル	48 タイトル
② 録音図書のボランティア実績		
(ア) 朗読ボランティア		
	40 名	46 名
(イ) デイジー編集ボランティア数（重複あり）		
	10 名	8 名
(ウ) 録音図書ネットワーク製作システム参加ボランティア数（重複あり）		
	80 名	83 名
(エ) 現役朗読者を対象とした朗読技術指導		
延べ実施数	1 回	3 回
延べ人数	40 名	60 名
③ リクエストによる録音図書製作・ボランティア実績（東京都委託分）		
(ア) 録音希望者	56 名	123 件
		1,049 時間 29 分
(イ) 朗読者	42 名	
(ウ) デイジー編集者	36 名	
(2) 録音雑誌の製作		
録音雑誌 月刊「にってんデイジーマガジン」の製作とサピエ図書館への登録		
(3) 池田輝子記念文庫製作事業		
スタジオ録音及びデイジー編集により、 87 タイトルの録音図書を製作した。		
(4) 電子書籍の製作数		
① テキストデイジー完成図書	200 タイトル	198 タイトル
② マルチメディアデイジー完成図書	6 タイトル	7 タイトル
	18 時間	22 時間
③ 電子書籍のボランティア実績		

③ 点字データタイトル数	263,645 タイトル 932,337 件	253,223 タイトル 898,829 件
④ 年間点字データアップ数	10,818 タイトル	11,137 タイトル
⑤ 年間点字データダウン数		
個人	417,781 タイトル	446,015 タイトル
施設	27,762 タイトル	25,406 タイトル
⑥ 音声デイジーデータタイトル数	123,164 タイトル	116,920 タイトル
⑦ 年間音声デイジーデータアップ数	8,242 タイトル	9,660 タイトル
⑧ 年間音声デイジーデータダウン数		
個人	3671,450 タイトル	4,050,680 タイトル
施設	280,419 タイトル	270,170 タイトル
⑨ テキストデイジーデータタイトル数	15,658 タイトル	14,085 タイトル
⑩ 年間テキストデイジーデータアップ数	1,665 タイトル	1,738 タイトル
⑪ 年間テキストデイジーデータダウン数		
個人	246,782 タイトル	260,896 タイトル
施設	5,740 タイトル	4,930 タイトル
⑫ マルチメディアデイジーデータタイトル数	491 タイトル	431 タイトル
⑬ 年間マルチメディアデイジーデータアップ数	72 タイトル	51 タイトル
⑭ 年間マルチメディアデイジーデータダウン数		
個人	5,753 タイトル	5,950 タイトル
施設	659 タイトル	556 タイトル
⑮ 年間音声デイジーデータストーリーミングタイトル数		
個人	586,370 タイトル	705,475 タイトル
施設	10,997 タイトル	11,152 タイトル
⑯ 年間目録検索件数	4,293,223 件	4,759,957 件
⑰ 年間オンラインリクエスト受信数	223,410 件	246,251 件
⑱ 全国の点字図書館・公共図書館等に対する情報提供	52,534 件	65,418 件
内訳（複数提供あり）		
電話	36,352 件	48,743 件
点字・録音・墨字	14,994 件	19,720 件

メール	5,424 件	2,226 件
口答	551 件	351 件

3. 東京都委託事業

(1) 東京都視覚障害者用図書製作貸出事業

① 点字図書の製作・貸出

(ア) 製作 プリント図書	47 タイトル (162 巻×2 部複製)
(イ) 貸出	169 タイトル 641 冊

② 声の図書の製作・貸出

(ア) 製作	77 タイトル (77 枚×5 部複製)
(イ) 貸出	2,728 タイトル 2,742 枚

③ 希望図書の製作

(ア) 点訳希望者	54 名	90 件	78,874 ページ
(点訳者 14 名 14 グループ)			
(イ) 朗読希望者	56 名	123 件	1,049 時間 29 分
(朗読者 42 名 編集者 36 名)			

(2) 東京都視覚障害者用図書レファレンスサービス事業

視覚障害者、施設・団体に対する情報提供数	29,306 件
内訳 (複数提供あり)	
電話	24,231 件
点字・録音・墨字	7,332 件
メール	2,940 件
口答	449 件

4. 東京都補助事業

東京都からの補助金を得て、都内貸出事業を実施した。

5. 省庁・自治体からの委託・補助による事業

(1) 東京都消費生活総合センター

CD 版「東京くらしねっと」の作成及び配布	6 回	3,615 部
-----------------------	-----	---------

(2) 各市区町村委託事業

① 「広報新宿」	点字版製作及び配布	39 回	1,269 部
② 「しんじゅくの教育」	点字版製作及び配布	4 回	107 部
③ 「新宿区議会だより」	点字版製作及び配布	5 回	180 部
④ 「さっぽろ市議会だより」	点字版製作	4 回	680 部

6. 公的機関・団体・企業等からの委託及び助成・補助による事業

(1) 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

第 6 回全国視覚障害者囲碁大会の開催助成

(2) 社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団

① 「ラジオ文芸館」「新日曜名作座」「FM シアター」等、全 9 種類(音声デイジー版)の受入貸出

② 「NHK 障害福祉賞入選作品集」音声デイジー版を 70 枚製作

③ 第 6 回全国視覚障害者囲碁大会の開催助成

(3) 社会福祉法人中央共同募金会

大阪府民共済生活協同組合

点字図書 1 タイトル、録音図書 2 タイトルを製作・貸出

埼玉県民共済生活協同組合

点字図書 4 タイトル、録音図書 3 タイトルを製作・貸出

全国生活協同組合連合会

点字図書 3 タイトル、録音図書 4 タイトルを製作・貸出

全国労働者共済生活協同組合連合会

点字図書 2 タイトル、録音図書 1 タイトルを製作・貸出

(4) 社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団

チャリティコンサート開催費助成

(5) 社会福祉法人読売光と愛の事業団

① ロービジョン機器等相談事業の実施

(ア) 職員研修の実施

開催日 2024 年 2 月 29 日 (木)

テーマ「ロービジョン外来開設と視覚障害者福祉施設との連携の取り組みについて」

講師 山本詩織氏 (慶応義塾大学医学部眼科学教室・認定視能訓練士)

参加者 46 名

(イ) ロービジョン向けグッズの充実、新型の携帯型読書器等 169 件 785 点を貸出

(ウ) 本間一夫文化賞クリスタル盾製作

② 専門対面リーディングサービス事業の実施 利用者数 234 名

③ 視覚障害者用就労支援機器の購入

- (6) 公益財団法人 JKA
「障がいのある人が幸せに暮らせる社会を創る活動」として、録音雑誌「医学研究」及び「ホームライフ」を月 1 回年 12 回製作・発行。「にってんデイジーマガジン」に収録し、利用者・点字図書館・視覚特別支援学校・ハンセン病療養施設等へ 64,523 枚配布。
- (7) 公益財団法人鉄道弘済会
録音雑誌「ブックウェーブ」を月 1 回年 12 回製作・配布(「にってんデイジーマガジン」に収録して配布)
- (8) 公益財団法人東京都人権啓発センター
機関誌「TOKYO 人権」マルチメディアデイジー版を年 4 回製作、CD32 枚複製、サピエ図書館で配信
- (9) 公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会
「障害者白書 令和 5 年版」朗読マスター作成
- (10) 公益財団法人日本尊厳死協会
点字版「リビング・ウイル」を年 4 回、114 冊製作
点字版・音声版「入会案内」「付属資料」を製作
- (11) 公益財団法人日本テレビ小鳩文化事業団
点字カレンダー37,562 部の製作
- (12) 公益財団法人早川清文学振興財団
「ハヤカワライブラリー」10 タイトルを製作し、147 ヶ所へ配布(計 1,600 枚)
- (13) 公益財団法人一ツ橋総合財団
- ① 録音図書「一ツ橋文庫」10 タイトルを製作・貸出
 - ② テキストデイジーの製作・提供
 - ③ 音声・マルチメディアデイジー教材製作 Web システムの改良と普及への取り組み
 - ④ 録音図書ネットワーク製作システム「びぶりお工房」の維持運用
 - ⑤ シネマ・デイジー「NHK スペシャル 映像の世紀」の製作・提供
- (14) 公益財団法人毎日新聞東京社会事業団
第 6 回全国視覚障害者囲碁大会の開催助成
- (15) 公益信託久保記念点字図書援助基金
視覚障害者等に対するデイジー図書コンテンツ提供に関わる確認作業のための再生機器の購入
- (16) 一般財団法人 NHK 財団
テレビ・デイジー48 タイトルの編集製作に係る助成

- (17) 一般財団法人日本宝くじ協会
点字図書 3 タイトル、録音図書（音声デイジー） 3 タイトル、録音図書（シネマ・デ
イジー） 3 タイトルを製作・貸出
- (18) 公益財団法人原田積善会
宛名カード用プリンター整備事業
- (19) 一般社団法人全国腎臓病協議会
機関紙「ぜんじんきょう」CD 版を 1,428 枚複製・配布
- (20) 一般社団法人日本アマチュア無線連盟
「点字 JARL NEWS」を年 4 回、386 冊製作
- (21) 株式会社岩波書店
岩波新書等のデイジー版を製作・貸出
- (22) 株式会社広済堂ネクスト
「文京スクエア」CD 版 年 12 回 240 部製作・発送
- (23) セゾン情報システムズ
訓練用機器購入及び電子書籍製作関連機器購入の助成
- (24) 株式会社トラバース
新製品情報「SONY 聞くカタログ 第 62 号」を製作、「にってんデイジーマガジン」
に収録・配布
- (25) 株式会社ニッポン放送第 49 回ラジオ・チャリティ・ミュージックソン実行委員会
録音図書のデイジー編集製作に係る経費の助成
- (26) 株式会社文藝春秋
録音雑誌「文藝春秋」を月 1 回年 12 回製作・配布（「にってんデイジーマガジン」に
収録して配布）
- (27) 三菱商事株式会社
音声読書器を購入し、網膜色素変性症や緑内障、加齢黄斑変性症などの眼疾患でロ
ービジョンになった方に、高額な商品の選定に失敗がないよう購入前にご自宅での
環境で試せるよう貸し出し機に加えた。
視覚障害者体験用シミュレーションレンズを購入し当館の研修、講座等で使用する
他、貸し出しでは、企業の研修やロービジョンの見え方を理解するために当事者の
ご家族にもご利用いただいた。

7. 川崎市視覚障害者情報文化センター運営委託事業

新型コロナウイルス感染症が5月から5類に移行し、コロナ禍から徐々に日常へ戻しながら事業を進めた1年だった。

図書の貸出では、利用登録者数は増加したが、CD図書の貸出、ダウンロードサービスで

の録音図書提供数は前年より減少した。図書製作では朗読ボランティアの養成を行い、全17回の講座を半年にわたり開催した。受講生8名が全員合格し、朗読者としての活動がスタートした。

訓練・相談事業では、長期にわたる訓練よりも、短期間で行う相談ニーズが高く、歩行、パソコン・ICT（スマートフォン等）機器など、各種の相談件数が昨年実績を大きく上回った。また、医療機関をはじめ障害者相談支援センター、地域包括支援センター、役所の障害担当などへ事業説明会を行ったり、医療機関・障害者関係機関の方々と毎月オンラインの情報交換会を行った成果が徐々に表れ、各方面から紹介される人が増えてきた。地域資源の一つとして当センターが認知されてきていると思われる。イベントへの参加者も徐々に増え、12月には例年並み、或いはそれ以上の参加者数があり、当事者の方々も日常を取り戻している様子であった。

(1) 閲覧・貸出

	2023 年度	2022 年度
① 利用登録者数	533 名	521 名
(新規登録者数)	39 名	20 名
(点字使用者数)	122 名	128 名
② 利用登録団体	306 施設	304 施設
(新規利用登録団体数)	2 団体	7 団体
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	3,729 タイトル	3,608 タイトル
(冊数)	13,103 冊	12,733 冊
蔵書数の変化 (新収書)	121 タイトル	151 タイトル
	370 冊	425 冊
貸出数	440 タイトル	336 タイトル
	1,339 冊	1,125 冊
(内 他館借受)	85 タイトル	76 タイトル
	304 冊	264 冊
(雑誌)	187 タイトル	213 タイトル
点字図書コンテンツのダウンロード提供		
メモリーメディア	21 タイトル	28 タイトル
④ 録音図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	6,953 タイトル	6,579 タイトル
(枚数)	6,988 枚	6,615 枚

蔵書数の変化（新収書）	374 タイトル 374 枚	447 タイトル 447 枚
貸出数		
（ア）カセットテープ	11 タイトル 65 巻	0 タイトル 0 巻
（イ）CD図書	7,677 タイトル	7,792 タイトル
（内 他館借受）	3,417 タイトル	3,485 タイトル
（ウ）CD雑誌	3,586 タイトル	3,954 タイトル
デイジー図書コンテンツダウンロード提供		
メモリーメディア	4,050 タイトル	4,370 タイトル
⑤ レファレンスサービス情報提供件数	317 件	583 件

(2) 資料製作

① 点字図書の製作数

（ア）製作数	47 タイトル 182 冊	52 タイトル 198 冊
内訳		
委託製作数	16 タイトル 65 冊	23 タイトル 87 冊
委託外製作数	31 タイトル 117 冊	29 タイトル 111 冊
（イ）寄贈	29 タイトル 88 冊	32 タイトル 92 冊
（ウ）プライベートサービス	5 タイトル	11 タイトル

② 録音図書の製作数

（ア）製作数	77 タイトル	86 タイトル
内訳		
委託製作数	64 タイトル	65 タイトル
委託外製作数	13 タイトル	21 タイトル
（イ）デイジー編集	77 タイトル	86 タイトル

(ウ) 寄贈	96 タイトル	104 タイトル
(エ) プライベートサービス	24 タイトル	19 タイトル
内訳		
録音	11 タイトル	11 タイトル
テキストデイジー（合成音声デイジー含）		
	8 タイトル	3 タイトル
プレーンテキスト	3 タイトル	3 タイトル
PDF	2 タイトル	0 タイトル
テープのデイジー化	0 タイトル	2 タイトル
③ テキストデイジー図書の製作数	4 タイトル	5 タイトル
④ シネマ・デイジー/音声ガイドの製作数		
製作数	16 タイトル	25 タイトル
内訳		
センター内製作数	2 タイトル	10 タイトル
委託製作数	14 タイトル	15 タイトル
(3) 点訳ボランティア、朗読ボランティアの養成		
① 点訳ボランティア養成講座		
開催回数	—	16 回
実受講者数	—	4 名
② 点訳ボランティアスキルアップ研修会（エーデル講座）		
開催回数	3 回	—
延べ受講者数	15 名	—
③ 朗読ボランティア養成講座		
指導回数	17 回	—
実受講者数	8 名	—
④ 朗読ボランティアスキルアップ研修会		
指導回数	—	4 回
延べ受講者数	—	35 名
(4) 訓練・相談事業の取り組み		
① 訓練		
訓練者実数	26 名	238 回
（新規訓練者数）	6 名	59 名 495 回
		14 名

内訳（複数提供あり）

歩行訓練	9 名	108 回	17 名	263 回
パソコン訓練	2 名	23 回	4 名	17 回
ICT 訓練	2 名	25 回	12 名	63 回
点字訓練	3 名	52 回	2 名	13 回
生活訓練(日常・調理)	4 名	14 回	10 名	97 回
その他	6 名	16 回	14 名	42 回
② 相談	328 名	715 回	217 名	588 回
③ 用具の展示と販売紹介	展示点数	399 点		387 点
	販売紹介点数	1,490 点		1,215 点

(5) 啓発普及

① 事業報告会の開催

1 月 訓練事業説明会 参加者数 24 名

② 授業・講座への講師派遣

(ア) 当事者職員による「視覚障害者の生活について」小学校授業

6 月 7 日	高津小学校	4 年生	約 220 名
10 月 27 日	田島小学校	4 年生	76 名
12 月 12 日	向小学校	4 年生	約 60 名
1 月 11 日	宮前小学校	4 年生	約 130 名
2 月 2 日	今井小学校	4 年生	113 名

(イ) 同行援護従業者研修講師

総合研修センターにおいて実施された同行援護従業者（一般過程）研修
「同行援護の基礎知識」講師派遣

5 月 17 日・7 月 5 日・10 月 3 日・2 月 9 日 延べ参加者 48 名

(ウ) オンライン研修会の開催「知って活かそう—高齢者の見えにくさがもたらす
影響とリハビリの大切さ—」

7 月 22 日 市内の高齢視覚障害に関わる医療・介護従事者 48 名参加

(エ) 東京医薬看護専門学校（江戸川区）授業講師

11 月 28 日 視能訓練士科 2 年生 25 名「ロービジョン医学」の授業で「歩
行訓練士の仕事、視覚リハビリテーションの実際」について講義

③ 訓練生交流会の開催

(ア) Zoom を使用した利用者交流会

当事者間の情報交換会（6,10,2 月）開催数 3 回 延べ参加者数 29 名

(イ) 屋外交流会 (9 月) 横須賀市猿島

参加者27名 (内訳: 訓練生11名+付き添い8名+職員8名)

④ イベントの開催

(ア) CD で聴くクラシック音楽講座	開催数 6 回	延べ参加者数 135 名
(イ) ヨガ教室	開催数 20 回	延べ参加者数 326 名
(ウ) 音声ガイド付き DVD 映画体験上映会	開催数 24 回	延べ参加者数 489 名
(エ) 歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」	開催数 6 回	延べ参加者数 135 名
(オ) 出張ヨガ教室	開催数 4 回	延べ参加者数 46 名
(カ) 春、冬のコンサート (5 月, 2 月)	開催数 2 回	延べ参加者数 210 名
(キ) 小説の中の味を楽しむ会 (6 月, 1 月)	開催数 2 回	延べ参加者数 60 名
(ク) UDCast 体験上映会 (8 月)		参加者数 40 名
(ケ) 浪曲師 澤雪絵の浪曲体験講座 (9 月)		参加者数 15 名
(コ) センターまつり (12 月)		参加者数 192 名

II ≪社会福祉事業 2≫

障害福祉サービス事業及び相談事業の経営

1. 相談支援事業

(1) 基本相談	2023 年度	2022 年度
	492 件	410 件

相談内容は、視機能の低下に伴う不安や困りごとに関することが多く、そのかたのニーズにあわせ、自立訓練、同行援護、用具の紹介などを行なった。

(2) 見えない・見えにくい困りごと相談デスク	34 件	—
-------------------------	------	---

(内訳) 相談会対応: 13 件 相談会以外対応: 9 件 電話対応: 12 件

今年度から新しく始まった、見えない・見えにくい困りごと相談デスクでは、不安解消や情報収集を目的としたものが多く、それに続くものとして用具選定や用具利用、就労関係などの相談が寄せられた。当館だけで解決できないケースについては外部の関係機関と連携し、相談者が次のステップに進めるよう支援を行った。

2. 自立訓練 (生活訓練) 事業

自立訓練 (生活訓練)	2023 年度	2022 年度
-------------	---------	---------

実人数	92 人	79 人
延べ回数	2,103 回	2,343 回
内訳（複数提供あり）		
歩行訓練	29 人 374 回	25 人 312 回
点字訓練	19 人 438 回	24 人 572 回
ICT 訓練※	76 人 1,130 回	57 人 1,309 回
日常生活訓練	12 人 55 回	11 人 41 回
ロービジョン訓練	1 人 10 回	2 人 37 回
運動・余暇	38 人 96 回	33 人 74 回

※ICT訓練とは

パソコン、スマートフォン、タブレット等のICT機器を音声出力、音声入力、拡大出力等を利用することにより活用できるようになるための訓練

3. 医療機関との連携

相談会の実施	2023 年度	2022 年度
お茶の水・井上眼科クリニック	4 回	2 回
西葛西・井上眼科病院	1 回	0 回

コロナ禍も過ぎ、通常に近い形で開催することが出来た。年度途中からは予約制ではなく、フリーで相談を受ける方式に変更した。

4. 点字教室の実施

点字教室	2023 年度	2022 年度
開催回数	80 回	83 回
延べ受講者数	173 名	173 名
（新入生）	2 名	4 名

※週に 1 回（火曜日）実施

5. 短期訓練の実施

短期訓練（1 コマ 1 時間の 6 コマ）	2023 年度	2022 年度
	23 名	12 名

Ⅲ ≪公益事業≫

盲人生活用具の開発と普及及び国際視覚障害者情報提供協力事業

1. 視覚障害者用具の販売斡旋

	2023 年度	2022 年度
(1) 取扱商品点数	905 点	913 点
販売斡旋数	73,347 点	74,576 点
(2) 新商品（新規取扱商品）	21 点	31 点
主な新商品：アイナビネックポーチ、おしゃべりハト時計、エンジェルビジョン デスクトップリーダー、三点式杖用石突(黒)16 mm、携帯型 OCR マ ルチプレーヤー センスプレーヤー、携帯型拡大読書器ルビー10 ス ピーチ、ハトメジャーⅡ、音声・拡大読書器「快速よむべえ」、富山 サンダー折りたたみ傘 127 cm、拡大読書器トパーズ XLHD、音声付 オリンパス IC レコーダー ボイストレック DM-750、GRS006-04、 HONESTIES ソックス、表面作図器用紙・半透明 100 枚 1 組		
(3) 海外諸国への輸出件数	8 件	5 件
主な輸出国：台湾、韓国、イタリア 主な販売商品：触読腕時計、オセロゲーム、一体オセロ、ルービックキューブ、標 準点字盤、マスコットブレイル、シュガーポット、スライド式サポ ートケーン、そろばん、サッカーボール、バレーボール、表面作図 用紙、タックテープ		
(4) 体験会・展示会		
(ア) 各種機器体験会の実施	30 回	21 回
(イ) 展示会への出展	6 ヶ所	3 ヶ所
(ウ) 用具商品の貸出展示	9 回	6 回
(貸出先：点字図書館など)		
(エ) ゲーム会の開催	0 回	0 回
(オ) 補装具・日常生活用具制度の説明、各種相談会開催	1 回	1 回
(5) インターネットショッピングサイト「わくわく用具ショップ」の運営		
① 会員数	7,159 名	6,675 名
② 新規会員数	484 名	474 名
③ 受注件数	4,496 件	5,157 件
④ 受注商品点数	26,583 点	26,968 点
(6) 広報の充実		
① 新商品情報誌「ニュー用具タイムズ」を年 4 回製作。(5 月、7 月、11 月、3 月) 「にってんデイジーマガジン」、「サピエ図書館」にコンテンツを提供した。		
② 「ホームライフ」の「わくわく用具タイム」のコーナーで、新商品を 4 回紹介した。		
③ インターネットショッピングサイト「わくわく用具ショップ」会員に対して、メー ルマガジンを配信し、新商品のお知らせやイベントを紹介した。		

- ④ 日本点字図書館公式ツイッターにおいて、新商品の紹介などに関する投稿を7回行った。

(7) 企業 CSR との連携

株式会社アートコーヒー、東京海上日動安心110番株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、日本郵船株式会社、旭海運株式会社、三菱商事株式会社、三菱食品株式会社、三菱鉱石輸送株式会社のボランティア活動において、用具事業課で使用する点字シールや封筒を製作していただいた。

2. 厚生労働省委託事業

	2023 年度	2022 年度
盲人用具販売あつ旋事業	15 種 15,773 点	14 種 17,206 点

3. 池田輝子 ICT 奨学金事業

第19回池田輝子 ICT 奨学金事業を実施した。

実施期間：2023年6月26日～7月8日 ICT 訓練 中級コース

実施場所：ペナン(マレーシア)

参加者：5名

4. アジア盲人図書館協力事業

一般社団法人霞会館の助成により、ベトナム社会主義共和国ホーチミン市の視覚障害者支援団体「ニャット・ホン視覚障害者センター」に対し、点字プリンタ1台の提供と操作指導を行った。

IV <<収益事業>>

マンションの設置経営

2棟の賃貸マンション（総戸数34戸）を運営し、生じた収益は、社会福祉事業及び公益事業に充当した。

V <<本部事業>>

1. 寄付・助成金の増収

(1) 毎年継続の寄付の依頼状発送に加え、新規寄付者獲得に努力した。

	2023 年度	2022 年度
新規寄付者	204 名	194 名
総件数	7,146 件	7,455 件

(2) ワンブック・プレゼント運動

点字図書	10 件 34 口	12 件 35 口
録音図書	21 件 83 口	24 件 78 口

2. 日本点字図書館カード会員の拡大

ホームページ上の特設ページで広報し、加入者の拡大を図った。

3. チャリティコンサートの実施

第 21 回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート

「ほのカルテット with 澤 和樹～弦楽アンサンブルの愉しみ～」

2023 年 10 月 28 日（土） 東京文化会館 小ホール

来場者 286 名

4. 第 20 回本間一夫文化賞の贈呈

鍵盤楽器奏者・武久 源造氏（日本を代表する音楽家の一人としての活動をはじめ、視覚障害者の文化の向上に貢献）

5. 第 30 回にってん野路菊賞の贈呈

該当者なし

6. 広報誌その他の活動

① 広報誌「にってんフォーラム」（年 4 回、各 5,600 部）を発行した。

② 「感謝録」（8,000 部）を発行し、寄付者を中心に関係団体等に配布した。

③ 「事業案内」（2,250 部）を発行し、寄付依頼に同封するとともに、関係者（団体）等に配布した。

④ ホームページから定期的に情報を発信した。訪問者数の合計 504,734 件、ページ閲覧数の合計 929,127 件

⑤ エックス（旧ツイッター）による情報発信を延べ 124 件おこない、フォロワー 4,304 名を獲得した（前年比 155 名増）

- ⑥ 当館からのお知らせや企業・団体等から寄せられた催しをメールで案内する「にっ
てんニュースレター」を合計 16 回、延べ 8,666 名に配信した。
- ⑦ 見学の受け入れ 164 件 699 名

7. イベントの実施、他団体への協力

(1) 主催

視覚障害や当館事業にかかる 1 回 1 テーマの体験型講座「にっ
てんワークショップ」を開催（全 7 回、参加者数 108 名）

第 1 回 子ども向け特別企画「夏休み・キッズチャレンジ！」

開催日：2023 年 8 月 5 日（土）

参加者：48 名

第 2 回 テーマ「触る」

開催日：2023 年 9 月 16 日（土）

参加者：10 名

第 3 回 テーマ「聞く」

開催日：2023 年 10 月 7 日（土）

参加者：9 名

第 4 回 テーマ「触る」

開催日：2023 年 12 月 16 日（土）

参加者：10 名

第 5 回 テーマ「聞く」

開催日：2024 年 1 月 20 日（土）

参加者：7 名

第 6 回 テーマ「触る」

開催日：2024 年 2 月 17 日（土）

参加者：15 名

第 7 回 テーマ「聞く」

開催日：2024 年 3 月 16 日（土）

参加者：9 名

(2) 共催・協力

①Tokyo Eye Festival 2023

ロービジョンコーナーにて当館の事業を紹介したポスターの展示、ロービジョン

グッズの展示、用具カタログの配布

開催日：2023 年 10 月 14 日（土）～10 月 15 日（日）

会場：新宿駅西口広場イベントコーナー「ガラスの扉のイベント広場」

来場者数：2,200 名

②令和 5 年度 東京ロービジョンサポートフェア

日本点字図書館コーナーにてロービジョングッズの展示、レクチャーコーナーにてサピエ図書館の紹介、歩行、盲導犬体験コーナーにて白杖歩行体験を行った。

開催日：2024 年 3 月 17 日（日）

会場：新宿駅西口広場イベントコーナー「ガラスの扉のイベント広場」

来場者数：1,216 名

8. 奥村文庫(視覚障害関係墨字資料室)の充実

視覚障害に関わる情報収集を行ない、問い合わせに対して適切な資料と情報の提供に努めた。

		2023 年度	2022 年度
視覚障害関係墨字資料の収集			
	図書	279 点	122 点
	雑誌	134 点	93 点
	新聞記事	325 点	869 点
利用件数	来室者	965 人	713 人
	レファレンス	847 件	522 件
	複写サービス	99 枚	78 枚

9. 「ふれる博物館」の運営

共催：手と目でみる教材ライブラリー

水・金・土曜日に開館

①第 12 回企画展「ジュラシック・パーム」

協力：真鍋真（国立科学博物館副館長）

独立行政法人 国立科学博物館

一般財団法人 地球の石科学財団 奇石博物館

会期：2023 年 7 月 19 日(水)～9 月 30 日(土) (29 日間)

来場者数：195 人(うち視覚障害者 57 人※)

②第 13 回企画展「江戸から昭和のマイホーム」

協力：公益財団法人 東京都歴史文化財団 江戸東京たてもの園

小沼畳店（豊島区・目白）

会期：2023 年 11 月 22 日(水)～2024 年 3 月 16 日(土) (46 日間)

来場者数：222 人(うち視覚障害者 82 人※)

年間合計 開館日数 75 日 来場者 417 人 (昨年度 93 日・414 人)

③特別企画 ワークショップ「江戸を体感 ―えどはく移動博物館―」を開催

協力：公益財団法人 東京都歴史文化財団 江戸東京博物館

開催日：2023 年 6 月 14 日(水)～7 月 1 日(土) (9 日間)

講師：江戸東京博物館学芸員

参加者：113 人 (うち視覚障害者 56 人※)

④「誰もが知りたいもの、必要なものを自由に手に入れ、触れられる社会」の創成に向けた 3D モデル提供体制の開発と実装」プロジェクトに協力

国会議事堂、原爆ドーム、入道雲、サグラダファミリア等 16 種、35 点をプリント

⑤「触地図をつくる会・つくってもらう会」を新潟大学渡辺哲也教授と共催で、3 月 23 日(土)に開催

注：※は概数

10. 本間一夫記念室の維持管理

①創立者本間一夫及び当館の歴史関係資料を収集管理し、来館者に公開した。

年間来室者数 486 人 (昨年度 123 人)

②著作権許諾葉書(録音図書分)の現物 PDF 化と現在の著作権者調査終了
1,553 枚

③古い資料のデータ化を行った。

・「点訳通信」(点訳者向け手書き謄写版印刷)のデータ化(第 25 報：昭和 27 年 11 月号)

・本間ノート(本間一夫の学生時代のノート)の点字から墨字データ化 39 ページ

④疎開時代の未製本点訳書のデータ化を行った。

6 タイトル 287 ページ

⑤「式場隆三郎展」に主催の 1 団体として参加した。

会場：我孫子市白樺文学館

主催：我孫子市、我孫子市教育委員会、医療法人式場病院、日本点字図書館

前期：7 月 15 日(土)～10 月 9 日(月) 後期：10 月 17 日(火)～1 月 14 日(日)

当館が担当

来館者(後期のみ)：1,344 人

関連して長岡理事長の講演会(9 月 30 日 42 人)、伊藤常務理事の出席の座談会(10 月 29 日 35 人)があった。

VI《会議・研修・福利厚生》

1. 会議

(1) 役員会の開催

① 理事会	5 回
② 評議員会	3 回
③ 評議員選任・解任委員会	1 回

(2) 部課長会議・グループリーダー会議の開催

① 部課長会議	12 回
② グループリーダー会議	12 回（内 2 回紙面開催）

(3) 各委員会の開催

① にってんフォーラム編集委員会	8 回
② ホームページ製作委員会	4 回
③ 選書委員会	12 回
④ 防災・衛生委員会	0 回
⑤ 本間記念室・ふれる博物館委員会	2 回
⑥ 事業等検討委員会	9 回
⑦ 広報委員会	7 回

2. 表彰・研修

(1) 表彰関係

① 奉仕者（外部表彰）

（ア）東京都知事感謝	1 名
（イ）東京都社会福祉協議会会長表彰	2 名
東京都社会福祉協議会会長感謝	2 名
（ウ）日本盲人社会福祉施設協議会表彰	3 名
（エ）鉄道弘済会表彰	2 名

② 勇退奉仕者（内部表彰）

感謝状と記念品の贈呈	15 名 1 団体
------------	-----------

③ 職員

（ア）理事長表彰

永年勤続表彰	職員	4 名
	パートタイマー	7 名
表彰状		1 名
奨励賞		3 名

(イ) 外部表彰

日本盲人社会福祉施設協議会（永年勤続） 1 名
東京都社会福祉協議会（永年勤続） 2 名

(2) 職員研修

① 内部研修

「管理者研修」4 月 13 日（木）

講師：日本能率協会総合研究所 凌竜也氏 出席者 13 名

② 外部主催研修 28 件、延べ 75 名

3. 福利厚生

(1) 職員健康診断を 124 名（高田馬場 109 名、川崎 15 名）に実施した。

(2) ストレスチェックを 103 名（高田馬場 90 名、川崎 13 名）に実施した。

4. その他（講師派遣）

以下の研修会等に講師派遣を行った。

- ・筑波大学保健科学部 「視覚障害者の読書環境」について講話
- ・関東甲信越視覚障害教育研究会（文京盲学校）において国語科教諭に向けて日点とサピエの概要、今後授業に活用できる機器としてセンスプレーヤーによる読書方法等講話
- ・多摩地区で障害者サービスを担当する公共図書館職員に向けてサピエの概要について講話
- ・相模原市特別支援学校教諭に向けてサピエ図書館の概要について講話

ほか